

行田市指定文化財 旧忍町信用組合店舗 移築・保存修理工事を進めています



移築後建物正面外観復元完成イメージ(水城公園東側園地)

市では、市指定文化財で日本遺産の構成資産でもある旧忍町信用組合店舗を、水城公園東側園地に移築・改修・保存・活用して、街なかの賑わい創出につなげようと、調査研究と設計・監理をもつくり大学に委託して進めています。



大正ロマンの 香りを残す銀行建築

旧忍町信用組合は、大正4年(1916)に行田の足袋商店青年有志らによって組織された金融機関で、その事務所兼店舗として大正11年(1922)7月に竣工した、市内では数少ない下見板コロニアル・スタイルの貴重な洋館です。戦後、建物と土地は売却され、入居テナントも何度か入れ替わり、近年は地域の自治会集会所として活用され、「新町会館」の通称で親しまれていました。この建物の建築史的な重要性や、基幹産業であった足袋業界を支えた史実による社会的な重要性を文化財の専門家を中心とする文化財保護審議会が審議した結果、平成28年12月22日に行田市指定有形文化財として指定しました。

文化財の移築と活用

その後、建物は市に寄贈され、市ではこの趣のある建物を市民や来訪される観光客の憩いの場として積極的に活用しようとして、国の交付金などを活用して水城公園東側園地に移築することとしました。事業の実施に当たっては、この建物を文化財建造物として正しく保存・改修・復原する必要があるため、そのような実務経験が少ない一般建築を取り扱う建築士ではなく、文化財建造物修理の専門家でもある横山晋一教授(工学博士)が在籍するものつくり大学に調査研究・設計・監理を委託しました。また、施工会社は熊谷市妻沼に所在する国宝歓喜院聖天堂の修理実績のある株式会社魚津社(工務店(名古屋))を選定して、事業を進めています。

事業の現在の状況について、担当者である横山教授よりご紹介させていただきます。

工事の進捗状況

事業を実施するに当たって、私たちの研究室では建物の破損状況調査に加え、創建当初の姿を探るための建物痕跡調査と文献資料調査を実施しました。これにより、この建物は元々総二階建てとなる本体部に対し、背面側に平屋の下屋が付属する形態であったことが分かりました。なお、同じく正面左側に張り出す形で付属していた下屋は後の増築であったことも判明し、この移築を契機に取り除くことにしました。また、外装は色測計を用いた部材調査と古写真カラー解析により、当初の外壁や腰壁・建具外面は「萌黄色(淡い緑)であったことが明らかとなり、さらには窓枠が「緑色」であったことも判りました。その他、陸屋根や腰屋根の隅棟などを覆う鉄板色についても、「深緑色」であったことが判明しました。腰屋根が天然スレートに復元整備された外観をこの紙面でもお示ししていますが、大正ロマンを感じさせる美しい建築となります。

一方、内部は改修で移設された階段を元の位置に戻し、撤去された造り付け銀行カウンタールームなども復元します。なお、内部は「白色」の漆喰壁を基調に、濃淡で塗り分けた「萌黄色(淡い緑)」の格子天井、内側窓枠・建具内面は「砥粉色(ベージュ)」の色調へと復元されますが、きつとこを訪れる人々にとって居心地の良い優しい空間となることでしょう。



建物正面外観(移築前)



移築先工事現場の様子

日本遺産で行田にぎわいを

建物の移築・保存修理工事の完成は来年3月末を予定しており、関係者の総意として工期内にそれぞれが最高の仕事を行い、市民の皆さんが誇りに思ってもらえる「わが町の文化財」とするために、鋭意努力をしています。また、この建物は埼玉県内で唯一、日本遺産認定を受ける「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」の構成資産の一つでもあり、行田市にかつてのにぎわいを取り戻す足掛かりともなるでしょう。



解体中の建物



横山研究室による建物部材調査

私たちはこの重大なる使命をきちんと受け止め、最良の保存修復技術を駆使して、旧忍町信用組合店舗の移築・保存修理工事に邁進していきます。引き続き皆さんの温かいご支援とご理解をお願いします。

▼問い合わせ 文化財保護課文化財保護担当 ☎0553-3581

「市報ぎょうだ」11月号2ページの特集「安くておいしい行田産 新鮮・安心・安全 地産地消」の記事の中で、行田市地産地消応援団の中野さんのお名前表記に誤りがありました。正しくは「中野久雄」さんです。おわびして訂正させていただきます。